

学年	教科	目標値	本市の 正答率	目標値 との差
1年	国語	56.5	68.8	12.3
	社会	51.9	60.7	8.8
	数学	49.8	50.7	0.9
	理科	50.5	65.1	14.6
	英語	55.3	67.0	11.7
2年	国語	59.0	65.4	6.4
	社会	46.9	48.0	1.1
	数学	41.1	39.7	-1.4
	理科	45.6	45.8	0.2
	英語	50.2	49.8	-0.4

目標値・全国平均との差 +3ポイント以上…■ —3ポイント以下は…■

■良好な項目

- 中1の全ての教科において目標値を上回っている。
- 国語において漢字の読み書きにおいて中1, 中2ともに平均を上回っている
- 英語において、中1では「聞くこと」「読むこと」、中2では「書くこと」において全国平均を上回っている。
- 中1の社会において、世界の地理、日本の歴史の流れについて正答率が高くなっている。
- 中1の理科において、どの観点、どの領域とも全国平均を上回っている。

■課題のある項目

- 国語において、記述式の問題の平均正答率が低くなっており、無解答率も高い。また適切な敬語を選択する問題(中1)において正答率がかなり低くなっている。
- 中1, 中2とも数学が全国平均と比べると低くなっており、課題が見られる。特に、方程式の利用(中1)、円・球、1次関数(中2)など。円・球については昨年度も課題としていた。
- 中2の英語において、聞き取りの問題、また記述式の問題について正答率が低くなっている。

今後の対策

- その学年で付けるべき力を確実に身に付けさせ、知識・技能を定着させるための取組
  - ・单元ごとの定着状況の把握とパターン分析から見えた基礎・基本の定着のための取組 (单元テストのやり直しの徹底、小テストの実施、個に応じた課題)
  - ・教科部会による課題分析と来年度につなげる対応策の検討及び授業実践
- わかる授業に向けた授業改善
  - ・「めあて・課題、まとめ・振り返り」を位置付けた「わかった！できた！」を実感する授業づくり
  - ・協調学習における主体的・対話的で深い学びの授業実践の推進による活用力・表現力の育成
  - ・学校規模に応じた授業形態(アウトプット型授業、個別指導、補習指導 等)
- 効果的な家庭学習の推進